

スプートニク事件をめぐる中国の公式報道と宣伝

松村史紀

スプートニク打上げ後、約2ヶ月にわたる中国共産党機関紙『人民日報』の関連記事を悉皆調査し、三つの問題群に整理して宣伝内容を検討した。①ソ連の先進科研事業の一つに人工衛星を位置付けた（科技研究のなかの人工衛星）。②人類の宇宙征服を導く将来性ある工具として衛星を報じた（人工衛星のなかの科技研究）。③東側の体制優位を証明する事業としてスプートニクを宣伝した（冷戦のなかの人工衛星）。特に後発国ソ連が急成長して米英等を凌駕したことを強調し、自らの国家建設の模範にした。さらに中国国民党機関紙『中央日報』の関連記事を比較対照した。同紙は西側世界の優位をめぐる賛否両論を伝えたが、安全保障問題に偏重しており、在米華人のノーベル賞受賞関連記事のほか、めぼしい科研解説記事に欠けた。北京が「スプートニク」を多面的に誇るなか、台北は米国の衛星打上げ成功まで「ノーベル賞」を科研成果として誇るしかなかった。